

# 希望を

帯広市立  
帯広第四中学校  
1年4組31番  
和田 梨花

# JAPANの課題



私は、JAPANの課題について、「青年会議所」通称(JCI)の活動を調べてみた。JCIは、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、責任感を持った20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体。JCIの事業目標は、「社会と人間の開発」だ。社会開発による日常活動を展開し、「自由」を基盤とした民主的集団能力の開発を押し進めている。そのためにはどうすればよいのか。会員個人がすぐれた市民、職業人であるために自ら厳しく訓練し、さらに市民社会の中にあつて、市民を目標に向かつて一致協力するように働きながら、市民とともに進む。このことが大事だ。

帯広にも、「帯広青年会議所」がある。この「帯広青年会議所」で大切にしていることは「帯広で働く人の思い

第四中学校に至心算の方が来て認知症のことを教えてくれた。認知症には、2つの種類があり、「中核症状」と「行動・心理症状(BPSD)」がある。中核症状は、脳の細胞が死んでしまつて、(記憶障害・見当識障害・理解・判断力の障害・実行機能障害)などの

自信を失い全てが面倒になる。身の回りのことも自分でできなくなる」という症状を起す。早期に治療すれば

## 温かく見守る

うすればよいのかと。治せるので、身の周りがあればよくなる。その人が気づいてあげることが大事だと思う。



家族写真

私は今後、親・兄弟・祖父・祖母が認知症になった時、最初は温かく見守ることをスタートラインにしたい。

## 1人の意識

バスに乗って、帯広にある「JICA」に行つた。JICAでは

SDGsのことを学んだ。様々な問題のことをSDGsという。日本にも課題がある。特に大きな課題は、「ジェンダー平等」「つく

た。1つは、ジェンダーや関係なく、好きな職業に働けること。2つは、十勝に住んでいてよか、たと思わせる活動をしている。私は、この活動から感じたことは帯広のために全力を尽くしていることわかる。

私は、JCIが活動をしてくれるおかげで社会が成り立っていると言つても過言ではないと思う。

帯広の森「はぐくむ」に行つた。そのときは、ワイズを問



帯広の森「はぐくむ」年当時帯広市長の吉村氏か「森を増やそう」

「はぐくむ」は、木を大切にしよう。帯広の人達か植林してくれていたので。昔、木を切りすぎて森が無くなりそうになったのを昭和44

## 編集後記

私は、この新聞を通して一人一人が進んでやるということをやりたい。意見がたす、質問をする。この二つで新しい発見があるかもしれない。私もウォークラリーで葉っぱの違いかわかった。みんな積極的にワイズに取り組みでいてよか、たと思

SDGsのことを学んだ。様々な問題のことをSDGsという。日本にも課題がある。特に大きな課題は、「ジェンダー平等」「つく

この新聞で自分の考え方が変わ、た人はこれからの生活に取り入れてくれたら私はずいぶん嬉しい。

